

9月に入って、やっと朝晩が涼しくなるとホットしていましたが、台風の影響で今週の週末から猛暑の日中となりました。天候は夏に戻ってしまいましたが、コバギボウシの花が終わって、当園では初秋の訪れを告げる「ワタラセツリフネソウ」が開花し9月中の連休には群生した花園が見れそうです。昨年、一号近隣公園で見た勢いのあるメハジキ、今年は未だの様子ですが、こんぶくろ池の浄水器付近にヒヨドリジョウゴと一緒に群生しています。これから秋の開花植物を楽しめそうです。



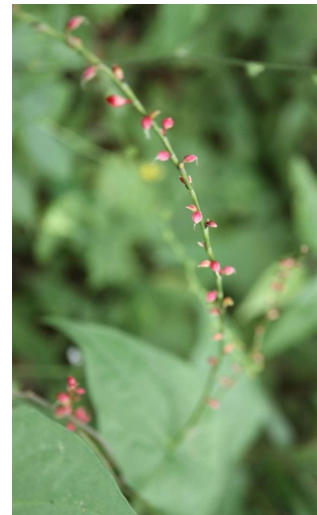
ワタラセツリフネソウ(渡良瀬釣船草)：7日は数株の開花でしたが、8日は10株以上が開花していました今週末には、群生した花園が見えるかもしれません



メハジキ(目弾き)
花の時期の全草を採取し乾燥させたものを、漢方で産前産後の保健薬にしたことから、「益母草」(ヤクモソウ)ともいう



オトコエシ(男郎花)
男尊女卑の時代は男は白米を食べていたことから白米の花色は白であることから
オトコエシ⇒オトコヘシ、ヘシはへこます意味



ボントクタデ(凡篤蓼)
辛みが無く利用価値がないことから「凡篤(愚かな)」タデ



ヒヨドリジョウゴ(鴨上戸)：花弁は五つに裂けた星形雄しべと白い雌しべが突き出した姿になり、雄しべは黄色地に茶色っぽい太筋がついて、カラメルプリンみたいな色どりが多く、花弁の付け根には緑色の斑点



ウド(独活)：「生土」の意味で土から芽が持ち上がるように出てくることを表わした名前。



ヌスビトハギ(盗人萩)
豆果が二節からなり、その形が足音をたてないよう忍び歩いた泥棒の足跡に似ているところから



ムラサキシキブ(紫式部)
実が紫色になってきました



キツネノマゴ(狐の孫)
穂が狐の尾とする由来は良しとして、孫は何処か定まった由来は不明確



キツネノカミソリ (狐の剃刀): 8月21日撮影、地金堀の北側に群生して咲いていました。この一帶來年が楽しみです